

現代神学のフロンティア

— 多様化する潮流 —

小原 克博

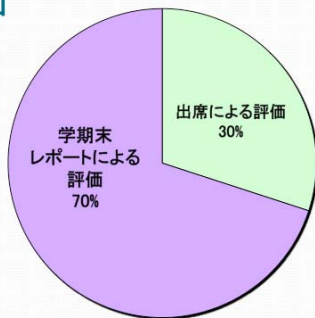
<http://www.kohara.ac>

毎回の授業の構成



2

成績評価



3

諸注意(1)



- 私語は厳禁!
- 遅刻しない!
 - 出席票は授業開始後すぐに配布
 - 出席は5回程度とする予定
 - 就職活動等によるやむを得ない欠席の場合は公欠届けを提出のこと

4

諸注意(2)



- 講義資料は**事前に**プリントアウトして、教室に持参
- 授業用ページを参照
 - 小原克博 On-Line (www.kohara.ac)
→ Education → 講義概要・シラバス → 組織神学5
- 前週の金曜日にはアップの予定

5

現代神学を学ぶ意義とは?

- 「現代」とは?
- **同時代性**の感覚
- 過去からの問いかけ
- 課題の共有



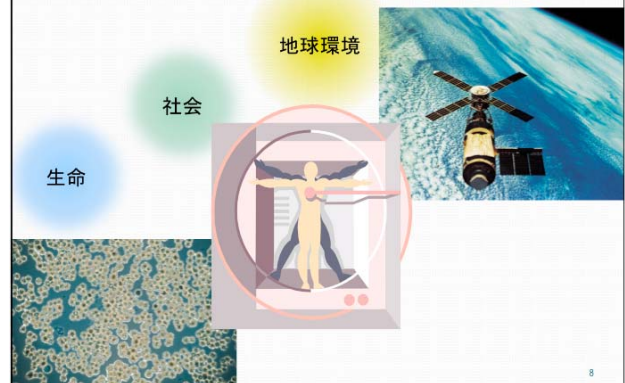
6

現代神学の前史

- 過去数世紀における伝統の変容、**コスモロジー（世界観）**の変遷が現代に重層的な課題を与えている。
- 20世紀中頃においては、世界観・コスモロジーと信仰を切り離す傾向が強かった。
 - 宗教の「私事化」 (privatization)

7

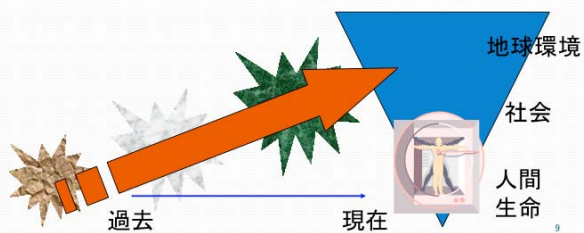
人間と世界の関係 — コスモロジー



8

コスモロジーの変遷

- 共時的 (synchronic) 視点と通時的 (diachronic) 視点の必要性



9



地球中心主義の終わり

- 地動説革命
 - 17世紀、コペルニクス、ガリレオによる。
- ニュートンの万有引力の法則は、天と地を同じ法則によって統一した。



10



人間中心主義の終わり

- 進化論革命
 - 19世紀、チャールズ・ダーウィンによる
 - 今年 (2009年)、生誕200年
- ワトソンとクリックによるDNAの二重らせん構造の発見 (1953年)
 - 生物の構造を分子レベルで解明することが可能となってきた。
- 自然の一部に位置づけられた人間
 - 霊長類に対する知識の増大
 - 遺伝学的研究の進展



11

無限な世界という幻想の終わり

- 地球環境の有限性 (資源・大気) を認識するようになる。
 - 1962年、レイチェル・カーソン『沈黙の春』
 - 1973年、第一次石油ショック
 - 1997年、地球温暖化防止京都会議
 - 2008年、G8北海道洞爺湖サミット
 - 2050年までに世界全体のCO₂排出量の少なくとも50%の削減を目指す



12

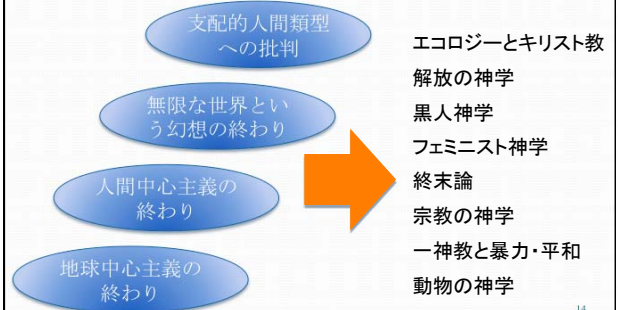
支配的人間類型への批判

- 人間は平等に尊厳を与えられてきたのか？
 - 白人種、男性、異性愛者等に与えられてきた優越性に対して批判が向けられる。

13

神学のパラダイム変換

—21世紀のコスモロジーを求めて—



14